

“ヒラメキ”からはじまる

企業ストーリー

貧困の連鎖を断ち切り、教育格差解消をめざす、NPO法人LFA

文 牛久保洋次

text by Yoji Ushikubo

【未常識】今は常識ではない、でも未来に常識となる事：これは私が作った造語です。

日本では7人に1人の子どもが貧困世帯で暮らしていると言われていました。貧困の子どもたちほど家庭環境に恵まれず、学歴形成が難しい状況にあります。そしてそれは、将来の就職難に繋がります。貧困が再生産されてしまうのです。子どもの貧困を放置することで、彼らが大人になったときの納税額が減ったり生活保護を受けたりすることで生じる経済損失は43兆円とも言われています。

今回はすべての子どもたちの可能性を育むため、学習や生活面、発達に困難を抱えた子どもたちの自立のために活動している「NPO法人Learning for All（以下…LFA）」をご紹介します。

現在LFAで行っている事業は、主に2つあります。1つは「学習支援事業」です。経済的な要因で困難を抱えている子どもたちを対象にした、無料の学習支援教室を運営しています。教師となるのは、LFAの理念に共感して応募した大学生。選抜、研修を受けて子どもたちの指導にあたります。単に勉強を教えるだけでなく、学習指導を通して子どもたちに夢や学ぶ目的を見つけてもらって、「貧困の連鎖」に巻き込まれないよう自立していくことを支援しています。

2つ目の事業として始めたのが「子どもの家事業」です。家庭の経済状況が厳しい子どもたちの中には、学習の機会以前に、バランスのとれた食事や入浴などの基本的な生活習慣、周囲との適切なかわり方といった将来の自立に不可欠な力を身に着ける機会すら得られていない子どもがいます。こうした子どもを対象に、「家でも学校でもない第三の居場所」をコ

ンセプトに日本財団の委託を受け子どもを運営しています。児童保育のような仕組みで平日の14〜21時まで、主に小学校1〜3年の児童20人程度を受け入れます。ここではケースワーカーなど専門家の協力を得ながら、学習面だけでなく生活指導や食事提供まで含めた、包括的な子どもの自立支援を展開しています。

今後の目標は、行政と連携して困難な状況にある子どもたちを「見つける」、彼らの支援に必要なステークホルダーを「繋げる」、居場所や学習機会を提供して「支援する」という3つの働きかけを大切にして、これらを各地で持続的にを行い、地域全体で子どもたちの成長と夢を見守っていけるような「子ども支援の生態系モデル」を全国に広めていくことです。

Forbes JAPAN「30 UNDER 30 JAPAN」（※世界を変える30歳未満の若者たち30人）に代表理事の李炯植氏が選出。

「教育格差を終わらせる」仲間を募集!!

Learning for Allは現在、期限付きの助成金を主たる収入源として活動を行っております。現在の事業を継続するためには、その期限の切れる2020年までに、年間9700万円が必要となります。そのため、活動を継続的に支えてくださる、「LFAサポーター」を募集しています。LFAサポーターについての詳細は、QRコードにアクセスしてご覧ください。



今月の一言

子どもは可能性の塊!! 健全な成長が社会全体を明るく照らしていく

これが則ち【未常識の発見】



Profile

慶應義塾大学商学部 卒業
株式会社友アンド愛（レコードレンタルビジネスの開発者）を創業し、代表取締役就任。約700店舗をFC展開する。株式会社ビザカリフォルニアを創業し、代表取締役就任。約400店舗をFC展開する。日本CDビデオレンタル商業組合 初代理事長（社）ニュービジネス協議会 理事等を歴任。
現在、株式会社いかしい隊 会長、その他顧問数社。